

< 研究成果の紹介 >

甘ガキ生産における経営安定のための作期拡大技術
～ ハウスを利用した「前川次郎」の促成栽培～

農業研究部園芸グループ・地域経営グループ

1. 成果の内容

カキはβカロチン、ポリフェノール、ビタミンCなどの機能性成分を多く含んでおり、近年の健康志向の高まりにより、消費拡大が望まれるものと思われます。しかし、カキは旬の果物としてのイメージが強く、実際、出荷時期が秋期に限定されていました。最近では渋ガキである「刀根早生」のハウス栽培果実の出荷が増加していますが、本県カキの主要品種である「前川次郎」をはじめとした甘ガキについては、促成栽培を行っている産地は多くありません。

このような背景から、岐阜県、静岡県との共同研究で、甘ガキ主要品種、新品種を材料として、ハウスを利用した促成栽培と被覆資材を用いた抑制栽培に関する技術確立を図り、それらを露地栽培と組み合わせた場合の経済性を評価しました。



促成栽培ハウス

まずここでは、「前川次郎」の促成栽培についての成果を紹介します。

写真1のようなハウスを用い、ビニル被覆後の温度管理について検討した結果、1月上旬から下記に示した温度管理を行うことにより、9月上旬から収穫が可能となり（図1）、果実も大きくなることがわかりました。

2. 技術の適用効果と適用範囲

県下各地で利用できる技術であり、労力と作期の分散を図ることができます。

3. 普及・利用上の問題点

加温開始時期が遅くなると収穫期促進効果は小さくなり、3月上旬加温では露地栽培より約10日早くなる程度です。

9月収穫となる促成栽培果実は、露地栽培果実と比較すると果肉先熟型の成熟となります。したがって、へた部の果色はやや薄目ですが、果頂部カラーチャート値5程度が収穫適期となります。

（前園芸グループ 伊藤 寿）

【ハウス温度管理概要】

発芽期まで : 13 (最低温度)
発芽～開花終了 : 18 (最低温度)
開花終了以降 : 15 (最低温度)
露地最低気温が15 を超えるまで保温
日中は30 程度で換気

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下
1月加温	○		…		…	…	…		○	…	○	
3月加温			○							○	…	○
露地											○	…

○:被覆・加温開始 …:開花期 …:加温終了 …:被覆除去 ○…○収穫期

図1 カキ「前川次郎」の促成栽培と露地栽培の生育と管理概要